

VDT作業による眼精疲労に対する鍼刺激の影響

The effect of acupuncture on eye strain in VDT work

明治鍼灸柔道整復専門学校 ○ 西田章通・安藤文紀・中村辰三

【目的】 近年、コンピューターやワードプロセッサなどのOA機器の急速な普及により、テレビと同様の蛍光画面を見ながらの作業、いわゆるVDT (Visual Display Terminal) 作業が増加している。それにもとない作業従事者の眼精疲労が大きな問題となってきたが、定量的な評価を用いた鍼治療の報告はほとんどされていない。

今回、VDT作業による眼精疲労のひとつの指針とされている調節機能低下に対して、鍼刺激群と対照群とに分け、調節時間および近点距離を定量的な指標として、鍼刺激の影響を比較検討したので報告する。

【方法】 30歳代の男女を被検者とし、VDT作業負荷としてパーソナルコンピューター(NEC、PC-9801F2)およびディスプレイ装置(NEC、PG8853N)を使用し、漢字探索作業を連続1時間行わせた。

対照群として、負荷前、負荷終了直後および以後安静30分ごとに2回の計4回、アコモドポリレコーダー(KOWA、HS-9E)を用い、調節緊張時間・調節弛緩時間および近点距離を測定した。

鍼刺激群としては、同一被験者に対して負荷終了直後の測定後に、太陽穴(左右)と攢竹穴(左右)に1寸3分3番ステンレス鍼を用い、軽いヒビキを得てのち5Hzで15分間の低周波置鍼療法を加えた。

【結果】 鍼刺激群において、調節緊張時間・調節弛緩時間および近点距離に改善傾向がみられ、VDT作業による調節機能低下に対して鍼刺激が効果あるものと示唆された。

〒564 吹田市寿町1-20-19 明治鍼灸柔道整復専門学校 TEL 06-381-5337

MEMO

(第36回 全日本鍼灸学会学術大会 1986年4月20日)
